

44

米沢藩医 堀内素堂が重訳出版した「幼幼精義」の  
サクセ蘭訳原書とフーフェラント独語原著

北村 正敏, 高橋 秀昭

一般社団法人米沢市医師会

【はじめに】米沢藩医であった堀内家には江戸後期の蘭方医との書簡が「堀内文書」として保管されてきたが、平成23年7月堀内淳一氏より「堀内文書」が米沢市に寄贈されたことを契機に、一般社団法人米沢市医師会は、青山学院大学名誉教授片桐一男氏にその解説・注記・解説を依頼。米沢市、公益財団法人米沢上杉文化振興財団と共同で「堀内家文書」の刊行事業を行っている。本事業の経過中、片桐氏の指導により、堀内家医家5代目堀内素堂が重訳出版した「幼幼精義」の原本であるサクセの蘭訳原書およびその原著であるフーフェラントの独語原著を入手することができ、片桐氏は「幼幼精義」の重訳箇所を解明・特定されたので報告する。

「幼幼精義」は和綴じ二分冊で幕府による翻訳書出版規制の中、弘化2年晩秋（1845年）に初篇が出版され、嘉永元年（1848年）に第二篇が出版されたもので市立米沢図書館に保管されている。

【入手の経緯】「幼幼精義」の凡例に、原本は彼土で刊行された扶歇蘭度の著書（1798年第3版）の和蘭薩窟設（サクセ）の翻訳（1802年出版）本とある。これを手掛かりに片桐氏は書籍検索を進められオランダ・ライデン大学図書館にサクセの蘭訳本が存在するをつきとめられた。指示を受けた演者はライデン大学とメールのやり取りを行い、TIF・PDFファイルをDVDで入手。さらに演者は片桐氏よりドイツ古書店に原著本が存在するとの連絡を受け、仲介者を通して原著を購入入手。いずれも米沢市上杉博物館に保管された。

【方法】片桐一男氏にサクセ蘭訳本とフーフェラント独語本の複写を提供した。「幼幼精義」は初篇3巻、第二篇7巻からなり、第1巻は①原病總論②吐剂論、第2巻は③下剂論④緩性拒刺衝兼包摂性薬剂論、第3巻は⑤鎮痙麻酔薬剂論⑥利導抵抗薬剂論⑦外用法及外施内服諸薬論、第4巻は⑧摂生并気節論⑨痘瘡症候論⑩痘瘡治則論、第5巻は⑪見點期論⑫貫膿期論⑬乾収期論⑭病毒転移及継発諸症論、第6巻は⑮施治実験、第7巻は⑯扶氏痘瘡通治（補）⑰謨斯篤氏痘瘡通治（補）となっている。片桐氏はサクセ蘭訳本を一部和訳し、「幼幼精義」との構成を比較点検された。

【結果】入手した蘭訳本の書名は「WAARNEEMINGEN OVER DE NATUURLIJKE EN INGEËNTE KINDER\_POKJES, OVER VERSCHIEDENE ZIEKTEN DER KINDEREN」（489頁）で1802年、UTRECHTで出版。蘭訳者はアムステルダムの内科医JAN ADRIAAN SAXEであった。原著書はCHRISTOPH WILHELM HUFELAND著「Bemerkungen über die natürlichen und inoculirten BLATTERN, verschiedene Kinderkrankheiten, und fowohl mediziniſche als diätetiſche Behandlung der Kinder」（520頁）、第3版、1798年、Berlin出版と確認された。サクセ蘭訳本は三部からなり、第一部4章、第二部7章、第三部12章で構成されていた。片桐一男氏はサクセ蘭訳本の第三部第1章（p.241-335）が「幼幼精義」初篇1～3巻（①～⑦）の重訳個所で、第一部第1章から第4章（p.1-159）が「幼幼精義」第二篇第4、5巻（⑧～⑭）の重訳個所であることを特定し解明された。第6、7巻はサクセ蘭訳本からの重訳ではなかった。サクセ蘭訳本とフーフェラント原著本の構成は同じであった。

【結語】今回、堀内素堂重訳「幼幼精義」ならびにその蘭訳原本と独語原著の3点が米沢市にそろい、重訳箇所が特定されたことは画期的なことと考えられる。片桐一男氏の成果は引用文献1)に発表。2)3)4)に同文論文が刊行予定である。

## 引用文献

- 1) 片桐一男. 堀内素堂『幼幼精義』原書重訳箇所の追及. 洋学史研究会, 第257回例会発表資料. 2014.5.10
- 2) 「米沢藩医 堀内家文書」. 一般社団法人米沢市医師会・公益財団法人米沢上杉文化振興財団編. 2015.3.27刊
- 3) 「洋学史研究」第32号2015.4.25発行
- 4) 「蘭学, その江戸・長崎と東北」2015.3.31刊